

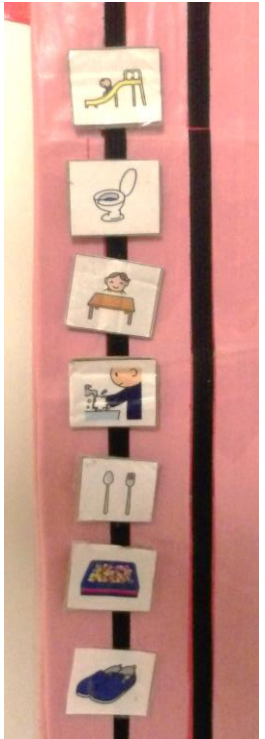
児童発達支援センター にこにこ園 支援プログラム



作成年月日	令和6年1月
法人理念	和顔愛語
支援方針	●お子さん方一人一人の理解の仕方、感じ方から支援を考える ●強みを活かした支援を行う ●本人の意思を尊重する。 ●日常生活動作やコミュニケーションの自立を目指し、段階的に支援を計画していく ●保護者や関係機関と協力し、保護者と関係者が共通認識のもとお子さんの生活を支援できるようにする
営業時間	8:00～17:00
送迎の有無	有

本人支援 ～健康・生活～

- ・ 生活の流れに見通しをもて安心して生活できるよう、一人一人に合わせイラストや文字を用いたスケジュールを使用。
(いつ、どこで、何をやるかわかる)
- ・ すべきことに注意が持続できるよう情報を整理し、環境調整を行い、基本的な生活スキルの習得・段階的な自立を促す。
(例 手洗いや着替えの手順書、持ち物を片付ける場所にシンボルマークを使用、一つのエリアで一つの目的)
- ・ 基本的な生活リズムを身に付けられるよう、日中の活動量を保証するとともに、家庭での生活についても助言を行う



本人支援 ～運動・感覚～

- ・ 日常生活動作、運動遊びを通して、できる動作の広がりを促す。
できて嬉しい達成感へ繋げる。



- ・ わかって使える玩具、道具が広がることで生活が豊かになるように

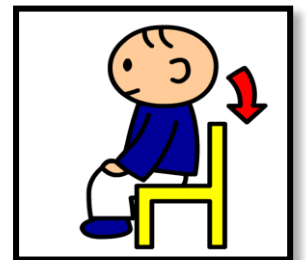
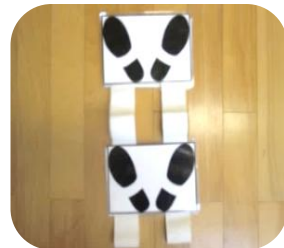


- ・ 感覚の特性に配慮し、本人が楽しい、やってみたいと思える活動の設定

本人支援 ～認知・行動～

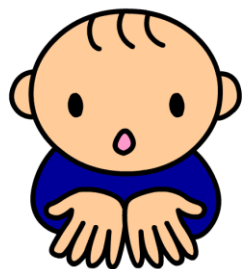


- ・ 本人の理解の仕方、感じ方から支援を考える
- ・ 大人との一対一での課題、自立課題（お子さんが自分で手順や内容もわかって一人で課題に取り組む）などで個別的に課題に取り組む時間を設ける（物の名称、色や形の名前、比較する言葉、数の概念など）
- ・ 個別対応で身に付けた力を、生活の色々な中で使えるよう支援する。
- ・ 人数や場所、物の数などを工夫した小集団活動で、自他の区別、状況を把握する力を育む



本人支援 ～言語・コミュニケーション～

- ・ 具体物やカードを使ったコミュニケーション練習
（コミュニケーションの方向性の視覚化、伝わって嬉しい経験からコミュニケーション意欲の向上）
→ 身振りや指差し・言葉での表現への広がり
- ・ 段階的にやりとり言葉を促す（例 大人との間で「ちょうだい」を練習する
→ 友だちと設定活動内で練習する → 自由遊び場面への移行）



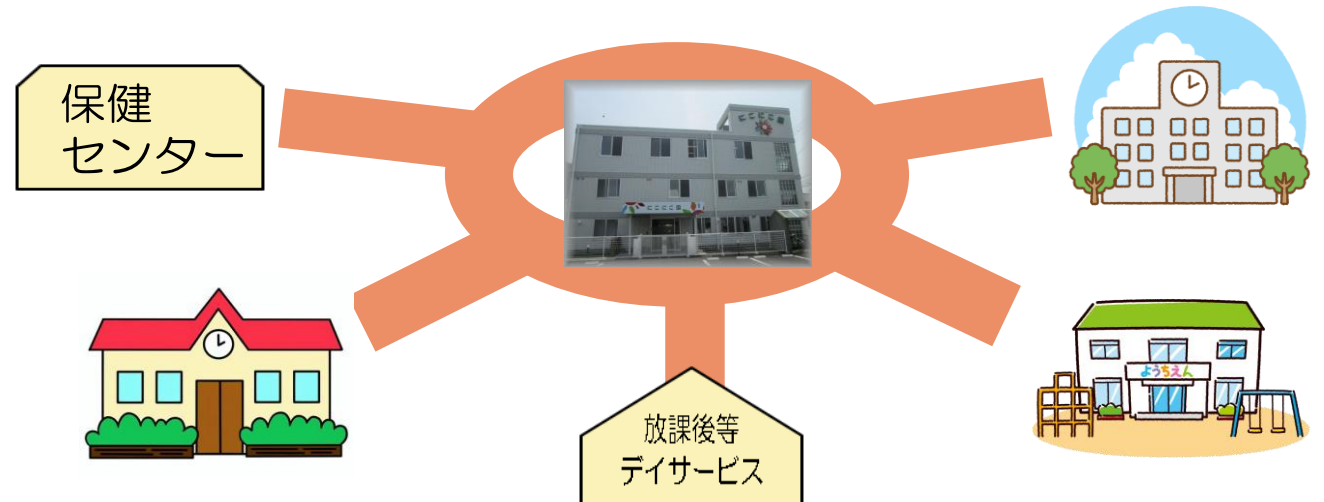
家族支援

- ・ 定期的な面談を通して、子育てについての相談に応じる。
- ・ お子さんの強み、有効な関わり方について助言を行う。
 - 例 家庭でのスケジュールの提示について
 - 医療機関受診時の視覚支援
 - 家庭での遊びの提案
- ・ 保護者向け勉強会や交流会を開催。（月１回程度）



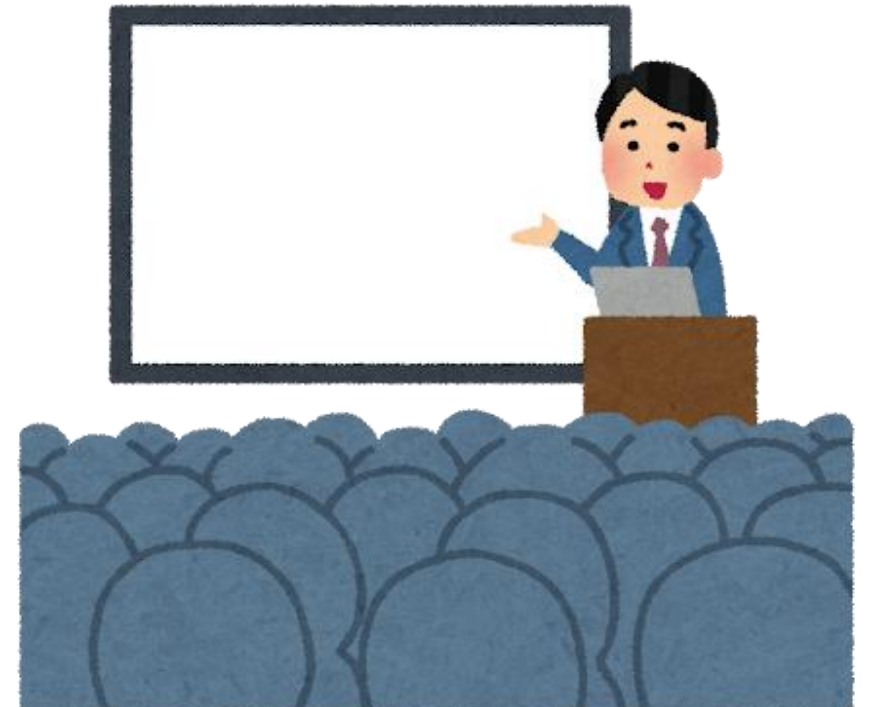
移行支援・地域支援・地域連携

- ・ 就園、就学、福祉サービスの利用形態についての変更等、お子さんの生活が変化するときにも、必要な支援について、相談・援助を行う
- ・ お子さんが併用する保育園・幼稚園・こども園との連携
（見学に伺い情報交換を行う、引継ぎ資料を作成しお渡しする等）
- ・ 保育所等訪問支援事業の実施



職員の質の向上に資する取り組み

- ・ 同法人内の他事業所との合同研修（月１回）
- ・ 事業所内でのケース検討（月１回）
- ・ 職員の希望する研修への参加助成制度



主な行事

- ・ 個人懇談
- ・ 秋祭り
- ・ 卒園式
- ・ 保護者会

